(公財)東京都サッカー協会広報誌

Tokyo FA News

JFA TOKYO FOOTBALL ASSOCIATION DREAM 夢があるから強くなる

巻頭特別企画

FC東京 長谷川健太監督「真の強豪になるために」

MATCH REPORT

2019東京国際ユース(U-14)サッカー大会
第24回東京都サッカートーナメント
JFA 第23回全日本U-18 女子サッカー選手権大会
第74回国民体育大会・関東ブロック大会
全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2019 IBARAKI 東京予選
第48回全国自治体職員サッカー選手権大会 東京都予選

TOKYO FA's Pick Up

東京オリンピック・パラリンピック

UNION NEWS

連盟ニュース

TOKYO FA NEWS 2019
Tokyo Football Association
Vol.31

「Tokyo FA News」は、東京都サッカー協会発行の広報誌です。
年2回、東京都のサッカーにまつわる情報を発行しています。

私たちは
東京都サッカー協会を
応援しています。

伊豆半島
湧水の杜　大川
izu Yusui no Mori OOKAWA

四季折々の花々と深緑、そして青い空と海があなたを迎えるオートキャンプ場です。
都心から車で2時間のアクセスで、自然豊かな中で静かなキャンプを楽しめます。
自然に囲まれ、日々の喧騒を忘れて週末を過ごしてみませんか。

キャンプ場名	湧水の杜 大川オートキャンプ場
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町大川 853-3
電話番号	090-2240-6956
ホームページ	https://zhangdaotokyo.wixsite.com/ookawa-camp

人を潤し自然を守る

ECO UP PROJECT

日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永　利明

《東京営業所》
〒150-0031　東京都渋谷区桜丘町30-4　渋谷アジアマンション604
TEL 03-3477-2477　FAX 03-3477-7661
http://www.yuusui-no-mori.com/

東京オリンピック・パラリンピック 2020 世界を東京に迎えるために

スポーツ界のビッグイベントを１年後に控えた今、世界を東京に迎える準備はどこまでできているのか。
日本サッカー協会から東京オリンピック・パラリンピック組織委員会に出向中で、
サッカー競技の大会運営を担当する大谷憲也さんに話を伺った。

大会運営の正念場は 8月7日の女子決勝戦

東京オリンピック・パラリンピックまで1年になりましたが、サッカー競技に関しては、おおむね予定通りに準備ができていると感じています。その要因としては2002年のFIFAワールドカップを開催していることが一番に挙げられます。

オリンピックのサッカー競技はオリンピックスタジアム（新国立競技場）、東京スタジアム、札幌ドーム、宮城スタジアム、茨城カシマスタジアム、埼玉スタジアム2002、横浜国際総合競技場という7つのベニューで開催されます。そのうち5つが2002年W杯の試合会場です。

オリンピックのサッカーはFIFAの大会と比べても大会期間が短くなっています。中2日で試合を行うことはFIFAの主催大会ではアンダー世代でもありません。また、同じ会場で1日2試合、ダブルヘッダーで行うので、芝生の消耗は激しくなります。どうやって芝生の状態を保つのかは大きな課題です。

練習場の確保と調整も大事な仕事です。チームの移動を考えて、宿舎から何分以内なのか、シャワーなどの環境はあるか、夜間照明はあるのか。出場チームが決まって、組み合わせ抽選が行われたら、各国のチームにどのように割り当てるかを決めていくことになります。

運営面では、8月7日の女子決勝戦が一つの正念場となりそうです。11時キックオフ予定なのですが、試合会場のオリンピックスタジアムでは前日に陸上競技の午後の部が行われています。陸上競技が終わった後、夜通し作業をしてサッカー競技ができるようにしなければならない。

午後の部では投てきや槍投げなどの競技もあります。ピッチのどのあたりにボールや槍が落ちるのか、どの程度のダメージになるのか。例えば、ペナルティーエリアの中がボコボコになっていれば、プレーに影響が出るのは間違いありません。それぞれの競技を担当するスポーツマネージャーが話し合って、より良い形を模索しているところです。

日本サッカーが もっと発展するために

当然ながら、オリンピック・パラリンピックの大会運営は、組織委員会だけで行うわけではありません。サッカーに関しては、東京都サッカー協会をはじめとしたFAとの連携は必要不可欠です。

2016年のリオデジャネイロオリンピックでは現地で大会運営を視察した

改めて感じるのは、これまでに数多くの国際大会を日本で開催してきたことの強みです。日本のサッカー界には2002年のワールドカップをはじめとして、FIFAクラブワールドカップ、2012年の女子U-20ワールドカップといった国際大会を通じた大会運営のノウハウがあります。

個人的には、今回の2020年の東京オリンピック・パラリンピックには、これからの日本サッカーを担っていくであろう20代～30代の人材にアサインしてほしいと思っております。大会運営を通じて得た経験こそ、2020年の“レガシー”となっていくはずです。

私は2015年4月から日本サッカー協会から出向して東京オリンピック・パラリンピック組織委員会で働いています。組織委員会は現在3000人ほどいますが、ほとんどが競技団体や、行政、スポンサー企業などからの出向者です。2020年が終わった後、それぞれが戻った場所で、今回の経験を活かして行動していかなければ、日本に本当の意味でのスポーツ文化は根付いていきません。

そして、東京のサッカーファミリーのみなさんには、このような機会だからこそあえてサッカー以外のスポーツにも触れていただきたいです。世界中のトップアスリートが日本、そして東京にやってきてプレーするわけですから。どんなスポーツからでも、多くの刺激を受けるのは間違いありません。

東京オリンピック・パラリンピック2020をみなさんの力で盛り上げましょう。

サッカー競技スケジュール

<男子>

7月23日	1次ラウンド（札幌、東京、茨城、横浜）
7月26日	1次ラウンド（札幌、茨城、埼玉、横浜）
7月29日	1次ラウンド（札幌、宮城、埼玉、横浜）
8月1日	準々決勝（宮城、茨城、埼玉、横浜）
8月4日	準決勝（茨城、埼玉）
8月7日	3位決定戦（埼玉）
8月8日	決勝（横浜）

<女子>

7月22日	1次ラウンド（札幌、宮城、東京）
7月25日	1次ラウンド（札幌、宮城、埼玉）
7月28日	1次ラウンド（宮城、茨城、埼玉、横浜）
7月31日	準々決勝（宮城、茨城、埼玉、横浜）
8月3日	準決勝（茨城、横浜）
8月6日	3位決定戦（茨城）
8月7日	決勝（新国立）

サッカー競技（男女）で使用されるベニュー

- オリンピックスタジアム（新国立競技場）
- 東京スタジアム
- 札幌ドーム
- 宮城スタジアム
- 茨城カシマスタジアム
- 埼玉スタジアム2002
- 横浜国際総合競技場

PROFILE

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
スポーツ局　スポーツマネージャー（サッカー）

大谷憲也（おおたに・けんや）

1978年3月25日生まれ、東京都出身。2007年より日本サッカー協会にて、競技運営部、プレジデンツ・ヘッドクォーターズ（PHQ）、などを歴任。2015年4月より東京オリンピック・パラリンピック組織委員会に出向中。

巻頭特別企画

© FC東京

SPECIAL INTERVEW

FC 東京

2018 年から FC 東京を率いるのが長谷川健太監督だ。
ガンバ大阪に多くのタイトルをもたらした名将が見据えるのは「タイトル」。
そこには首都・東京を背負うクラブへの責任と覚悟がある。

長谷川健太 監督
「真の強豪になるために」

悔しい経験をして、それを乗り越えていく

――2018年からFC東京の監督に就任されましたが、これまで清水エスパルス、G大阪を率いた経験のある長谷川監督にとっては東京での監督業は初めてとなります。

「元々自宅が東京にありまして、久しぶりに家庭で食事もできていい時間を過ごしています。清水の監督を退任し、G大阪に行くまでの間は東京に住んでいました。家族にとっては自分が東京でまた住みだしたことで、『面倒くさいのが帰ってきたな』と思っているんじゃないですか（笑）。娘もずっと海外に留学していましたし、息子が多感な時期に私も家を空けることが多かったので、そういう意味でもいい時期に東京に戻ってくることができました」

――FC東京での昨季はチームを底上げした1年でした。そして今季は好調を維持しています。

「昨季はもちろん優勝を目指して戦いましたが、全体的なパワーが足りずに最終的には上位から落ちてしまいました。ただその1年を通して選手たちも戦い方を理解してくれましたし、今季は昨季足りなかったところを伸ばしていくことに取り組んでいます。ここまでは非常にいい形で推移してきていますが、勝負は最後までわかりません。シーズン終盤まで優勝争いに絡んで、タイトル獲得にチャレンジしたいと思っています」

――清水時代はタイトルまであと一歩の戦いが多く、その後G大阪では2014年の3冠（リーグ戦、天皇杯、カップ戦）を含む多くのタイトルを獲得しました。頂点に立つことの大変さも尊さも両方理解されている長谷川監督が考える、FC東京に足りないものとは？

「タイトル争いをする経験です。そこで味わう悔しさはものすごく大切なことです。悔しさをどこまで味わうか。悔しさを知らないと、勝利の喜びをつかめない。もちろん突発的にタイトルを獲るチームもありますが、だいたいは手順を追っている。悔しい経験をして、それを乗り越える。足りない部分を身に着けて、その先にチャンピオンがある。単純に東京はこれまで優勝争いを経験した回数が少ないです。その経験の蓄えがなかった。川崎フロンターレはずっとタイトルが獲れない時期を長く過ごしていましたが、その蓄積されたパワーが2017年に開花し優勝すると、そこから連覇も果たしている。東京もまずは優勝争いをする。その経験こそが“クラブ力”になっていきます」

――監督個人として清水時代になくて、優勝したG大阪時代に備わったものとは具体的にはなんだったのでしょうか？

「戦い方に関しては根本の部分は変わらなかったですが、アプローチの仕方は少し変えていました。ベースの守備戦術は継続しながらも、G大阪ではより自分のやり方を信じて、貫いて、突き進みました。清水の時は例えばシステムを変えてみたり、表面的なものをいろいろと試行錯誤していたところがあったと思います。今思えば、それは小手先でのやり方だったのかもしれません。クラブ規模も中堅でしたので、限られた戦力でどう戦うかという現実的な問題がまずありました。勝てないのなら、少しシステム

まずはFC東京が目の肥えたサッカーファンの人たちを少しでも楽しませる、喜ばせるような試合をしていきたい。

優勝争いをコンスタントにできるチームを目指す

を変えてトライしてみようとか、その繰り返しで戦いの幅は確かに広がっていく。ただ、やっぱり一点集中、一点突破じゃないですが、自分自身がもっと突き進んで良かったのかなと思います。貫くことですね。戦い方や采配のバランスが清水時代の自分はまだ不安定だったかもしれません。ただ、いろんなアプローチをその時代にやらせてもらえたので、その後のG大阪での戦いと優勝につながった。清水の6年間があったから、G大阪で勝つことができたと思います」

――G大阪では国内タイトルをすべて獲得しました。これまでの手応えが確信に変わったということでしょうか？

「まずは2013年にJ2で優勝したことが大きかったです。J2とはいえ、個人的にはタイトルを獲ったのは初めてで、もちろん1年でJ1に昇格しないといけないプレッシャーはありましたが、優勝して上がれたことは大きな自信になりました。J1では清水でも上位争いは何度も経験していたので、どれぐらいのレベルのチームを作れば上位に加われるかという感触はすでに自分の中でありました。あとは最後、自分のやり方を貫く部分を大事にした結果がJ1でのタイトルにつながったと思っています」

首都のクラブが強くない強豪国はない

――固い守備と、“ファストブレイク”と呼ばれるゴールに向かっていく迫力のある攻撃。長谷川監督のブレない戦い方は現在FC東京でも表現されています。一方でFC東京に来て変化した部分はありますか？

「サッカーの根本の部分は変わっていないですし、ボールを奪ってファストブレイクで攻めていくという形は清水時代からずっと続けているところです。守備もそんなに清水時代から大きくは変わっていないですね。全員ハードワーク。ただ攻撃はG大阪時代には大枠の青写真はこちらで描きましたが、遠藤保仁や今野泰幸という存在がいたことによって、彼らにある程度裁量を与えることで力を発揮してくれたところもありました。ただ東京にはそういう経験値を持った選手がいなかったので、もちろん髙萩洋次郎や東慶悟といった選手はいましたが、攻撃の根幹の部分からここでは作っていったという印象です。そこは、G大阪時代とは違うところですね。G大阪の経験を踏まえてトレーニングメニューを精査した上で、東京に入っていきました。G大阪時代は1年間J2を経験したことで、いろんな意味で試すことができる時間もありました。東京では逆に初めからある程度高い目標が設定された中でのスタートだったので、これまでの経験のいいとこ取りをして整理して入ることが必要でした」

――今季前半戦の注目として、久保建英選手の存在が挙げられます。監督としてどのようなアプローチをしていきましたか？

「清水時代も自分が監督1年目のときに、岡崎慎司など高卒の有望なルーキーを7人獲得しました。G大阪に行っても堂安律や井手口陽介などユースからトップチームに上がってきた有望株を見てきました。だいたい、彼らがどんな感じになっていけばトップレベルでもプレーできるようになるかはわかっていました。昨季の建英はまだまだ足りないところがあったので、彼といろいろ話をしながら、彼個人もまだその足りない部分について十分理解できていないところもありました。建英にとって昨季は試練の期間だったと思います。ただ振り返ってみると、あのシーズンがあったから成長できたとも言えると思います。それをうまく自分の中で葛藤を経た上で消化し、今季に入ったので、結果的にもう一段レベルの上がった選手になりました。本当にああいう能力が高い選手は、伸びるときにはグンと成長するものだなと実感しました」

――リーグ戦もいよいよ佳境に入っています。FC東京はリーグタイトルをまだ獲得していない首都クラブです。これは世界的に見ても珍しい事例だと思います。

「首都のクラブが強くない強豪国はないです。やはり東京のクラブがタイトルを獲って、日本のサッカー界を牽引していかなければならないと思っています。そこにチャレンジできるチーム状態にありますし、なんとか結果を残したい。国内タイトルの先にはアジアの舞台があって、世界へと広がっていく。鹿島アントラーズや浦和レッズが現在の日本を代表するサッカークラブですが、将来的には東京がその位置にいかないといけない。それに向けて、少しでも自分が尽力できればいいと思っています。また東京にはサッカーに精通した人が多いです。昔は読売クラブが東京にはありましたが、それ以降は日本サッカーをけん引するようなクラブが首都から現れていない。まずは東京が目の肥えたサッカーファンの人たちを少しでも楽しませる、喜ばせるような試合をしていきたい。そして東京には多くの子どもたちもいます。彼ら彼女らがサッカーに興味を持って、将来一人でも多くの子たちがサッカーに関わりたいと思わせられるようなチーム・クラブにならないといけないとも思います」

――長谷川監督がFC東京の監督に就任して、心の底から勝ちたいというマインドがチーム内で高まっているように感じます。

「さきほど言ったように、やはり優勝争いを経験しないと本気でタイトルを狙おうとは思えないものです。昨季が全くタイトルの可能性がないような順位であれば、選手たちは本気でタイトルがほしいとは今ほど思っていなかったでしょう。そう選手たちが思えないと、クラブ全体も変わっていかないものです。選手が変わって、クラブも変わって、ファン・サポーターも大きな期待を抱いてくれている。そういう熱量が全体の流れをも変えていく。G大阪はJ2に落ちて悔しさを味わい、その熱量が昇格、そして3冠や他のタイトルにつながったと思います。本当に悔しい経験からのパワーが熱に変わり、いろんなことを変えていく。今年、東京が最終的にどこまでたどり着けるか、すごく楽しみです。」

PROFILE

長谷川健太（はせがわ・けんた）

1965年9月25日生まれ、静岡県出身。静岡県立清水東高校、筑波大学を経て、日産自動車、清水でプレー。常葉学園浜松大学、清水で監督を務めた後、G大阪ではJリーグの日本人監督としては初の国内三冠を獲得した名将。2018年よりFC東京でその手腕を発揮する。

パルメイラスが大会連覇
2019 東京国際ユース（U-14）サッカー大会

主催：東京都、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団、
公益財団法人東京都サッカー協会
日時：2019年5月3日～5月6日
会場：駒沢オリンピック公園総合運動場／AGFフィールド

今大会で11回目となる「2019 東京国際ユース（U-14）サッカー大会」が行われた。ボカジュニアーズとの決勝を制してパルメイラスが大会連覇。東京都トレセン選抜も5位に入る健闘を見せた。

南米対決となった決勝を制して、パルメイラスが大会連覇を達成

「2019 東京国際ユース（U-14）サッカー大会」が5月3日から6日にかけて駒沢オリンピック公園総合運動場ほかで開催。決勝は昨年大会覇者のパルメイラスと過去10回の歴史で4回の優勝を誇るボカジュニアーズが激突し、2－0で勝利したパルメイラスが大会連覇を達成した。また、東京都トレセン選抜が日本勢最上位の5位に入った。

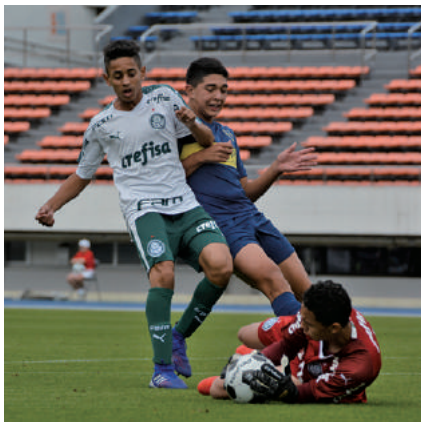
今年もパルメイラスやボカジュニアーズ、欧州からもプレミアリーグの強豪・トッテナムが来日するなど、豪華な陣容で行われた東京国際ユース。初日、2日目は20チームをAからDの4グループに分けてリーグ戦形式の1次ラウンドで争われ、それぞれのグループでの順位に応じて3日目、最終日の2次ラウンドのトーナメント分けが行われた。

各組1位で争われる第1トーナメントにはボカジュニアーズ、カイロ、FCソウル、パルメイラスが進出。残念ながら日本勢は東京トレセンがあと一歩のところで第1トーナメント行きを逃した。

準決勝第1戦はボカジュニアーズがカイロをスコアレスからのPK戦の末に下し決勝へ。もう1試合はパルメイラスがFCソウルを2－0で破って、2年連続のファイナル進出を決めた。

南米勢対決となった決勝は前半13分にFWカストロのクロスにFWパトリノが合わせてパルメイラスが先制。その後もパルメイラスが球際で強さを見せて連続して攻め込むと、28分にパトリノがエリア内で倒されてPKを獲得。MFアートスのキックは枠を外れたものの、ゴールキーパーが早く動いたとしてやり直しとなり、これをしっかり決めてリードを広げた。

後半、ボカジュニアーズは選手を入れ替えながら反撃にかかるが、ゴールを奪うまでには至らず。そのまま2－0で勝利したパルメイラスが昨年の初優勝に続き、大会2連覇を飾った。



表彰式では優勝したパルメイラス、準優勝のボカジュニアーズが健闘をたたえ合い、互いにハイタッチで迎えるという一幕も。最後は参加した全選手で巨大な輪を作り、「We love football！」のコールで大会は幕を閉じた。

第1トーナメントには一歩及ばずも東京都トレセンが日本勢最高位の5位

惜しくも第1トーナメント進出は逃したが、東京都トレセン選抜は開催地の代表として日本勢トップとなる5位に入った。

強豪ぞろいのグループDに組み込まれた中で、初戦でトッテナムを3－1で下すと、第2戦では前年覇者のパルメイラスと渡り合って0－0のドロー。2日目も岩手県選抜、ニューサウスウェールズを破り無敗で予選を終えたが、勝ち点で並んだパルメイラスに得失点差で及ばず2位トーナメントに回った。

東京都トレセン選抜が日本勢最高位の5位

2次ラウンドでは、昨年準優勝のチェルタノヴォを下し、5位決定戦はFC東京との東京勢決戦に。序盤の主導権争いを制し10分過ぎあたりから徐々にボールを持ち始めた東京都トレセンは前半24分、FW小宮績己のポストワークからMF吉荒開仁が縦パスを打ち込むと、MF土田純平のスルーパスに、立ち上がりから高い位置を取っていた攻撃的SB水越柾臣が抜け出してネットを揺らした。さらに28分には土田のクロスを小宮がダイレクトで決めて2－0。後半も勢いは止まらず、3分にFW貴田遼河のPKで追加点を取ると、16分には途中出場のMF山崎湘太にもゴールが生まれ4－0と快勝。有終の美で大会を終えた。

今大会を通して4つの海外チームと対戦。パルメイラスとの一戦では守備組織がハマってその後優勝することになるチームと渡り合った。また初戦のトッテナムは体格的にはそれほど大きくない中で「足元がうまくて、パスを絶対に繋ごうとする意思みたいなものを感じた」とキャプテンのDF羽田颯真。普段は経験できない様々なサッカーを体感し、感じる部分も多かったようだ。

この代は昨年、スロバキア遠征を実施、来年はアウェイでソウル選抜との定期戦も控える。そういった中で「世界を常に意識してほしい」と石川創人監督はいう。

羽田は「今回感じたトッテナムの繋ぐ意識や、パルメイラスの1対1の強さ、そういうところを見習って全部生かしていきたい」と、これを成長材料に変えて、自分たちがトップの世代となる来年への飛躍を誓った。

COMMENT

11番 FW
カストロ（パルメイラス）

「日本や海外のチームを含めて非常に強いチームが多かったですが、幸いにして自分たちがチャンピオンになれて非常に嬉しく思います。大会そのものが非常によくオーガナイズされていると感じられる素晴らしい大会でした」

明治大学が５年ぶりの天皇杯出場へ
第 24 回東京都サッカートーナメント／天皇杯 JFA 第 99 回全日本サッカー選手権大会東京都代表決定戦

主催：公益財団法人東京都サッカー協会
共催：共同通信社 、東京新聞・東京中日スポーツ
日時：2019 年 5 月 11 日（土）
会場：味の素フィールド西が丘

「第 24 回東京都サッカートーナメント」の決勝が 5 月 11 日に味の素フィールド西が丘で行われ、明治大学が 2 － 0 で早稲田大学を下して優勝。5 年ぶりとなる天皇杯出場を決めた。

堅守が光った明治大学が 5年ぶり5回目の大会制覇

2014年以来のタイトルを狙う明治大学と2016年大会覇者の早稲田大学のカードとなった今年のファイナル。両雄は直前の関東大学リーグ戦でも激突。2週連続の対戦となった。

立ち上がりからボールを持ってゲームを進めたのは明治大学。4分にはこの日トップ下として先発した持井響太のパスからFW小柏剛が決定的なシーンを迎えたが決めきれず、前半は「パススピードが遅く、各駅停車みたいなサッカーになってしまった。前への推進力や動き出しが足りなかった」と栗田大輔監督がいうようにランニングやギャップで受ける回数も少なく、攻撃が停滞してしまう。

一方、早稲田大学は2ラインでしっかりとスペースを埋めて明治大学のパスワークに対応。19分にはカウンターからカットインしたFW梁賢柱が左足で狙うと、シュートは惜しくもポストを叩いた。

それでも明治大学は前線の動きが活発になった後半にスコアを動かす。55分、MF安部柊斗の縦パスを受けた持井からMF佐藤亮にボールが渡ると、ドリブルで持ち込みペナルティーエリア左外から左足を一閃。直後、低く鋭いシュートがネットを揺らした。

1点を追う早稲田大学は70分、DF工藤泰平のシュートがクロスバーの下を叩くもラインを破ることはできず。終盤にかけても攻勢を強めた早稲田大学だが、明治大学はこの時間帯を全員でしのぐと、アディショナルタイムにDF川上優樹がヘディングではじき返したボールに抜け出したMF瀬古樹が落ち着いて決めて追加点とし、勝負を決めた。

一昨年から上夷克典（現京都サンガ）、岩武克弥（現浦和レッズ）の守備の2枚看板が抜けた中で今年は3バックにチャレンジ。「今シーズンは試合中の声が増えた。難しいテーマを与えたことにより選手たちの考える力が増して良い方向に向かっている」（監督）。中央大学、駒澤大学、東京武蔵野シティFCとタイプの違う相手に対し、大会を通して1失点と堅守が光った。

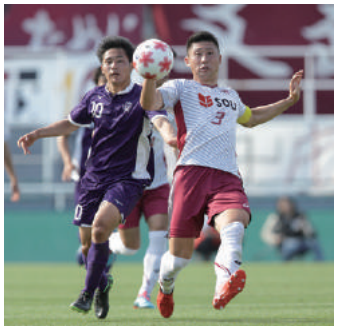
ひとりの選手に戻った佐藤亮が決勝弾 点取り屋として覚醒したアタッカー

攻撃面では覚醒した感のある佐藤亮の存在が大きかった。高校年代ではFC東京U-18でプレミアリーグ得点王も経験。その後もU-19日本代表など、華々しい経歴を辿ってきたが、大学では怪我もあり、なかなかレギュラー定着を果たせずにいた。

そんな中で今年は主将に就任。もとよりチーム意識が強く、当初は「チームをどうしなければいけないか」と、その責任感ゆえに苦しんだが、そんな佐藤の道しるべとなったのが指揮官の言葉だ。

「ひとりのサッカー選手としてもっと熱いプレーをしていいんじゃないか。自分が試合に出るために、もっともがいてもいいんじゃないかと、監督からお言葉をいただいてから自分は本当に変わった。自分にとってひとつのターニングポイントになったと思っています」。

リーグ開幕戦と東京都トーナメント学生系の部の2試合は出場のなかった中、迷いを振り切ったアタッカーはリーグ第2節・東洋大学戦で決勝点を奪うと、翌週の武蔵野シティFC戦では後半アディショナルタイムに劇的逆転弾。天王山前の早稲田大学とのリーグ戦でも2ゴールを挙げた11番は2週連続となった代表決定戦でもチームを勝利に導くゴールを決めるなど点取り屋として覚醒。「結果でチームを引っ張る」という自らのキャプテン像を見つけ出した。



ひとりのサッカー選手に戻った佐藤が爆発の予感を漂わせている。

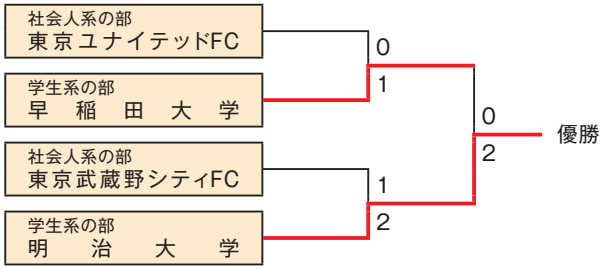
早稲田大学は3年ぶりの戴冠とはならず 主将の大桃「すべてが足りなかった」

リーグ戦ではなかなか結果を残すことができていなかった中でこの一戦を迎えた早稲田大学。前半は粘り強く守ってスコアレスで折り返したが、課題としていた後半に2点を奪われて敗れた。主将のDF大桃海斗は「（相手と比べて）すべてが足りなかった」と反省した。

「完敗というか、すべてにおいて自分たちよりも上だったのかなと素直に思いますし、そこに自分たちがもっと普段から向き合わないといけないと思う。やっぱり気持ちももちろん大事ですし、本質的な技術の部分だったり、走ること、球際だったり、そういう戦うところはまだまだ自分たちには足りないところだと思います」。

迎えた5月26日、明治大学はJ3のブラウブリッツ秋田に3－0で勝利し1回戦を突破したものの、2回戦ではJ1の川崎フロンターレに0－1で惜敗。プロクラブからの勝利はならなかった。

第24回東京都サッカートーナメント 結果



「東京の誇り」を見せる

第 74 回国民体育大会 関東ブロック大会

主　催：公益財団法人日本スポーツ協会／千葉県／関東ブロック各都県教育委員会、関東ブロック各都県体育（スポーツ）協会
日　時：2019 年 8 月 10 ～ 12 日
会　場：ゼットエーオリプリスタジアム、稲毛海浜公園球技場、第一カッターフィールド、姉崎サッカー場、袖ケ浦市総合運動場陸上競技場

「第 74 回国民体育大会関東ブロック大会」が 8 月 10 ～ 12 日に千葉県で行われた。成年男子、女子、少年男子、それぞれのカテゴリーの選手たちが「東京の誇り」を背負って戦った。

少年男子は2013年の東京国体以来の日本一を目指す

試合結果

【成年男子】
8 月 11 日
vs 群馬県　● 0-1
8 月 12 日
vs 山梨県　● 1-1（PK3-4）

【女子】
8 月 10 日
vs 栃木県　○ 2-0
8 月 11 日
vs 埼玉県　○ 1-0

【少年男子】
8 月 10 日
vs 神奈川県　○ 2-0

本大会出場決定

少 年 男 子

オール東京でつかんだ勝利 神奈川を下して本大会へ

勝ったほうが本大会出場――。少年男子は1回戦で神奈川との大一番に臨んだ。U-16トレセンリーグで引き分けた相手に、どう戦うか。北慎監督は「相手の良い部分を理解しながら、自分たちの良さも出そう」と選手たちをピッチに送り出した。

キックオフから目立ったのは東京の積極的な姿勢だった。ボールを持った相手に素早く寄せていき、パスコースを限定し、インターセプトする。マイボールになった瞬間、相手の守備が整わないうちに攻撃に転じて、何度もチャンスを作った。

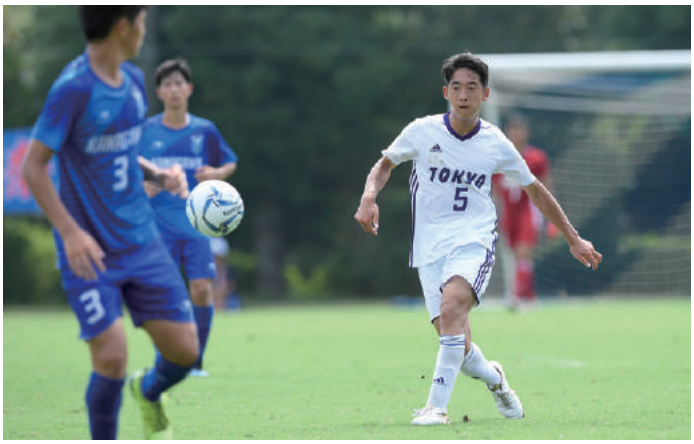
「主体的にボールを奪ってゴールを目指す。良い部分を出してくれた」(北監督)

積極的な姿勢が実ったのは後半の5分。相手のパスをインターセプトすると大迫蒼人が迷わず左足を振り抜いた。ゴールまでの距離はおよそ40メートル。「キック力に自信がある」という大迫のシュートはGKの頭上を超えてゴールネットを揺らした。

先制した後も東京の勢いは落ちない。14分、安田虎士朗、横山歩夢とつながったボールを野澤零温が「GKがちょっと出ているのが見えたので」と左足でふわりと浮かせる。狙い澄ましたループシュートが決まって2－0。その後も、最後まで集中を切らさなかった東京が、神奈川の反撃を防いで本大会出場をつかんだ。

今大会のメンバーは16人中12人がFC東京U-18から選出されていた。単独チームのようにも見えたが、北監督は「オール東京でつかんだ勝利」と強調する。

「この16人だけじゃなくて、今日ここに立っていない選手たちが何倍もいます。そういう競い合いがあって、高体連の選手とクラブの選手とが融合したことが今日の勝利につながったと思います」


大迫蒼人が鮮烈なロングシュートを決める

少年男子チームのユニフォームには左胸のところに6つの星がつけられている。これは国体で優勝した回数を示したもの。「日本一になって、7つ目の星をつけたい」（北監督）。2013年の東京国体以来となる全国優勝を、オール東京で目指す。

COMMENT

少年男子　FW ／ 10　**野澤零温**

東京は2年連続で本大会に出られていなかったので、今年は必ず出るというのを掲げて準備してきました。自分はFWですし、点を取るのが仕事です。ゴールの場面はイメージ通り。個人的に左足のシュートが課題だったので、左足で決められたのは自信につながります。

本大会出場決定

女　子

リバプールとバルセロナの融合で 3大会ぶりに本大会出場を決める

今年からチームを率いる河合一武監督は「リバプールのゲーゲンプレッシングと、バルセロナのポゼッションの融合」を目標にチームを作り上げてきた。

1回戦の栃木戦から東京らしさを出して勝ち切った。前線から連動したプレスをかけ、ボールを奪えば丁寧につなぎながらゴールを目指し、バー・ポストにシュート6本嫌われながらも2－0で完勝した。

本大会出場に王手をかけて迎えた、埼玉戦。なでしこリーグの浦和レッドダイヤモンズレディースに所属するメンバーを中心に構成された強敵を相手に、河合監督は「今日で突破を決めるのは難しい。なんとかPKまで持ち込めれば……」とゲームプランを考えていたという。

実際に立ち上がりから埼玉のプレスの前に、自陣に押し込まれる時間が続き、自分たちの形を出せないまま前半を終えた。

それでも「時間が経つにつれて手応えを感じていました。慣れてきたことで選手の判断も早くなり、ダイレクトのパスが通るようになりました」（松永早姫）というように、埼玉のプレスをパスワークでいなせるようになると、東京が息を吹き返す。

54分には相手のセットプレーからゴール急襲のシュートを許す。絶体絶命かと思われたこのピンチを、「うちのGKはどこにも負けない」と河合監督から絶対の信頼を置かれている木付優衣が好セーブで凌ぐ。すると流れは一気に東京へと傾いた。

後半には、高い位置からのプレスがハマり、裏へ抜け出した源間葉月がネットを揺らす。しかしここはオフサイドの判定でゴールはならず。

源間葉月が鮮やかなループシュートを決めたと思われたが、無情にも副審のフラッグが・・・

このままPK戦突入かと思われた70分＋2分、劇的なゴールが生まれる。源間のプレスによりGKと交錯し、ボールがこぼれたところを菅野永遠が詰める。1－0で逃げ切って、強豪・埼玉を撃破した東京が、2015年の和歌山国体以来となる、4年ぶりの本大会出場を決めた。

COMMENT

女子　MF／8　**松永早姫**

ここ3年間は本戦に出場できていなかったので、東京の思いを背負って本戦に出場できることをうれしく思います。色々なチームから選手が集まっていますが、河合流サッカーでまとまって戦うことができました。本戦も河合監督のサッカーを学びながら、みんなで優勝目指して戦います。

成 年 男 子

執念の同点ゴールも…… PK戦で敗れて2年連続の出場はならず

監督不在、エースの負傷、出場停止――。いくつもの試練に立ち向かった東京だったが、2年連続となる本大会出場の夢は潰えてしまった。

初戦の群馬戦から東京の歯車は狂い始めていたのかもしれない。前回大会にコーチとして参加した福田雅総監督は退席処分を受けており、群馬戦ではベンチ入りすることができなかった。さらにこの試合ではエースの飯島秀教が負傷し、平尾柊人も退場処分を受けてチームは0－1での敗戦となった。

「負けて残るものは何もない。かけがえのないサッカー人生において、このチームでプレーする意味を持たせるためには勝利以外にない。自分自身のために戦いなさい」。福田監督の激励に呼応するように、本大会出場がかかる大事な山梨戦は、立ち上がりから東京が主導権を握る展開となった。

しかし自陣でブロックを敷く山梨の前に、フィニッシュの形を作れずにいると前半終了間際の34分に失点してしまう。飯島に代わってキャプテンマークを巻いた井筒陸也の縦パスを奪われてカウンターを浴びると、ボックス内で相手選手を倒してしまい、PKを献上してこれを決められた。

「集中していれば防げた失点」（井筒）だけにメンタル面が心配されたが、東京は気落ちすることなく後半も山梨を攻め立てる。それでもゴールは遠く、55分からはセンターバックの香西克哉を前線に上げてパワープレーに出る。するとこの策が功を奏する。後半アディショナルタイム、ゴール前の好位置でFKを獲得した東京は、山田武典がゴール前に入れたボールを香西がヘディングでつなぐと、最後は福地が押し込んだ。

直後に試合終了のホイッスルが吹かれ、決着はPK戦に。先行の東京は

本大会出場にはあと一歩届かず

2－2で迎えた4人目のキッカーを務めた福地拓也が失敗。5人目の香西は決めたが、山梨は4人目、5人目が決め切って勝負あり。様々な苦難と戦ってきた東京だったが、本大会出場にあと一歩届かなかった。

COMMENT

成年男子　DF／5　**井筒陸也**

怪我人、出場停止選手がいる状況で、覚悟を持って戦わなければいけないという思いで試合に入りました。入りも良く、クオリティもこちらが高かったですが、ここで結果を出さないと意味がない。プレーした選手が結果を残さないと、出られなかった選手たちが責任を感じてしまいます。それが残念です。

INAC 多摩川、十文字中高が関東へ

JFA 第 23 回全日本 U-18 女子サッカー選手権大会東京都予選 JOC ジュニアオリンピックカップ

主　催：公益財団法人東京都サッカー協会
日　時：2019 年 8 月 10 日（土）～8 月 25 日（日）
会　場：清瀬内山運動公園サッカー場 他

第 23 回全日本 U−18 女子サッカー選手権大会東京都予選 1 次トーナメントの代表決定戦が 8 月 12 日に行われ、INAC 多摩川レオネッサ U−18、十文字中学高等学校がそれぞれ 2 次トーナメントへの勝ち上がりを決めた。

十文字中学高等学校　10－1　FC町田ボニータ
4　（前半）　1
6　（後半）　0

十文字中が5得点の野村の活躍などで、圧巻の10得点で大勝

5得点を挙げて勝利に貢献したFW野村亜未選手

今年、高校生年代が夏の日本一になった十文字中学高等学校は、次世代を担う若きタレントたちが躍動した。

開始からスピードのある2トップを生かすべく、ボールを散らしてスペースを作りながら攻撃を展開していくと前半7分、MF野口初奈のパスにFW野村亜未が自慢のスピードでキーパーよりも早くボールに触って先制点。野口は14分にキーパーのパントキックから抜け出してネットを揺らすと、25分にはこぼれ球に詰めて早々にハットトリックを達成した。34分には野村と2トップを組む三宅万尋もゴール。前半終了間際に1点を返されたが、後半も野村の2発を含む6得点を挙げるなど、圧巻の10ゴールで快勝した。

この日の出場選手はすべて中学生だというから驚きだ。チームを率いる大滝靖監督は「アンダー15の全国大会でJFAアカデミー福島にやられてしまって、ボールを奪われたらすぐに取り返すことや、たくさん縦に入れることといった修正課題にあげたところができていた」と振り返った。

前述のように高校生は今夏のインターハイで日本一に。そのチームに来年以降食い込んで行こうと意気込みも高いネクストジェネレーションたちも好選手揃いだ。

中でも10番を背負う野口はナショナルトレセンにも選出される注目株。「EAFF U-15 Girls' Football Festival 2019」に臨むU-15日本女子代表として韓国遠征から帰ったばかりという中で得意の中長距離のパスやドリブル突破で躍動した。代表ではディフェンスの選手がいない状況でサイドバックにもチャレンジ。その中でも「仕掛けたり、パスを出してアシストも何本もできた。カットインからのシュートで得点も入ったので、頑張りました」と持ち味を発揮してきたという期待のアタッカーは「もっと個の力を強くして、最終的に試合を決められる選手に」なってチャンピオンチームのレギュラー争いに挑む。

また、5ゴールと圧巻のパフォーマンスを見せた野村もスピードという天賦の才を武器に今後の成長が楽しみな選手。そんなスピードスターが憧れるのは同じくスピードを武器とし、インターハイ制覇にも大きく貢献したMF三谷和華奈だ。「今年は三谷先輩がラストなので、そこで自分がもっとスピードタイプとして活躍できるような選手になりたいです」と、ポスト三谷に名乗りを上げた。

フィオーレ武蔵野FC　0－2　INAC多摩川レオネッサU-18
0　（前半）　0
0　（後半）　2

後半出場の出原、小川が攻撃の勢いをもたらしチームを勝利に導く

途中出場で前線に勢いをもたらしたFW小川晴咲選手

前後半で色を変えたINAC多摩川レオネッサU-18が勝負を決めた。

前半から押し込みながらも攻めあぐむようなシーンが多かった中で、INAC多摩川はハーフタイム明けからFW出原音波、FW小川晴咲を投入すると攻撃が一段ギアアップ。前半はMF片岡優莉が担ったパスの出し手に出原が加わり、サイドからは推進力のある小川が積極果敢にドリブルで仕掛けて前線に勢いを生んでいく。

すると後半9分、ついに均衡が破れる。前線でセカンドボールを奪ったFW成田望美のスルーパスから左サイドバックの大橋桜子が右足を振り抜き、ゴール上方に突き刺した。その後も盛んに攻撃を続け、33分にはダメ押しのフリーキックを大橋が右足で巻いて直接沈め、試合を決定づけた。

途中出場で前線に勢いをもたらした出原、小川はともに中学3年生。出原は関東トレセン、小川は東京都のトレセンにも選ばれるなど、今後のチームを担っていく期待の選手たちだ。横山恵介監督も「スピードもあるし、ゲームの流れを変えることができる。1回戦も後半にあの子たちが入って流れが変わった。そういった部分で私もそうですし、子供たちも安心感というか、（彼女たちが）入ってくれれば流れを変えられるというのは感じていて、慌てずにやれているというのはあるのかなと思います」と信頼を寄せる。

また、後半は3バックから4バックに変更したが、トレーニングから自分たちで考えてサッカーをしているというチームはまったくブレず。今年2月に就任した指揮官は「常にいろいろなことにトライして、その時は迷ったりうまくいかなかったりすることもあるけれど、それを経験してうまく変えていけるように子供たちの姿勢も良くなってきている。自分たちから何かをしよう、変えていこうという姿勢がすごく見られるので、やっていて楽しみですね」と目を細めた。

勝ち上がった十文字中高、INAC多摩川、シード枠の日テレ・メニーナ、スフィーダ世田谷FCユースは、10月から始まる関東予選に挑む。

初のｅスポーツ国体出場に向けた東京都代表チームが決定

全国都道府県対抗ｅスポーツ選手権 2019 IBARAKI ウイニングイレブン東京都代表決定戦

多くの観衆が集まり、盛り上がりをみせた東京都代表決定戦

主　　催：全国都道府県対抗ｅスポーツ選手権大会 2019 IBARAKI ウイニングイレブン予選実行委員会
※参加企業及び団体：（株）コナミデジタルエンタテインメント、（一社）日本ｅスポーツ連合、（公財）日本サッカー協会
特別協力：J:COM（運営事務）
日　　時：2019 年 8 月 24 日（土）
会　　場：J:COM Wonder Studio（東京スカイツリータウン・ソラマチ5階）

第 74 回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」の文化プログラムとして初めて採用されるｅスポーツの大会「全国都道府県対抗ｅスポーツ選手権 2019 IBARAKI ウイニングイレブン」の東京都代表決定戦で東京都代表の 2 チームが決定した。

10月の国体出場を目指して 白熱の試合に会場も熱気を増した雰囲気に

「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2019 IBARAKIウイニングイレブン東京都代表決定戦」が8月24日にJ:COM Wonder Studioで開催された。この大会では競技タイトルの1つである「ウイニングイレブン」を使い、年齢制限なしのオープンの部と、高校生以下の少年の部に分かれて、10月に開催される第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」に東京都代表として出場するチームの座を争った。

少年の部、オープンの部ともに「ウイニングイレブン 2019」の「CO-OPモード」を使用した3vs3のチーム戦が行われた。実況は井上マーさん、解説をプロプレイヤーのレバさん、ゲーム大好きタレントの小島みゆさんが行い大会を盛り上げた。

大会を盛り上げる、（左から）小島みゆさん、レバさん、井上マーさん

少年の部はファルコンズダービーに

少年の部の決勝は、3チームの予選リーグを勝ち上がったフットサルクラブ「フウガドールすみだ」の下部組織「ファルコンズ」から出場したチーム「アルファ」とチーム「ベータ」の対戦となった。日頃フットサルプレイヤーとしても活躍するチーム同士ということもあるのか、両チームともにFCバルセロナを使用して、丁寧なポゼッションで試合を進めた。予選リーグでも「ベータ」を圧倒していた「アルファ」が主導権を握り多くのチャンスを作り出すも決めきれず。前半はスコアレスで終了した。後半に入っても一進一退の展開となるが、終盤に「アルファ」が待望の先制点を決めると、そのまま1－0で試合終了。「アルファ」が少年の部の東京都代表チームの座を勝ち取った。

「アルファ」のプレイヤーは、試合後「全国はさらにレベルが高いと思いますが、練習をしっかりとして、ここまで来たら全国優勝を目指したいです。」と意気込んだ。

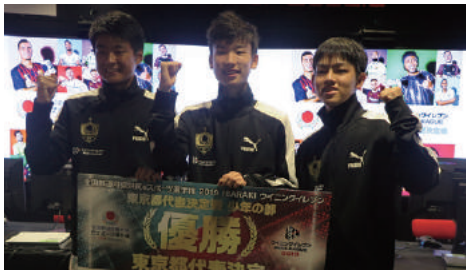
ハイレベルの東京予選を制したのは ASモナコ使いの「あんブルー」

決勝戦も息をのむ熱戦となった

オープンの部の決勝は、強豪が揃う東京都大会の準々決勝、準決勝を勝ち上がったFCバルセロナを使う「パスが大事」とASモナコを使う「あんブルー」の対戦となった。激戦を勝ち上がってきた両チームだけにハイレベルの決勝となった。試合は、チーム名の通りに丁寧なポゼッションで主導権を握りたい「パスが大事」と、堅い守備からの前線の高さを生かしたシンプルな攻撃で仕掛ける「あんブルー」という構図となった。試合が動いたのは34分。「あんブルー」がサイドからの攻撃で先制点を決めて前半を折り返した。後半に入っても「あんブルー」の強固な守備を「パスが大事」は崩すことができず、「あんブルー」が66分にも貴重な追加点。そのまま試合は2－0で終了。オープンの部の東京都代表チームが「あんブルー」に決定した。

「あんブルー」のプレイヤーは「守備を意識して高い位置でディフェンスができたのが勝因。チャンスをモノにすることができて良かった。全国では絶対に優勝します！」と意気込み、ハイレベルと言われた東京都代表決定戦を制した勢いそのままに、全国制覇も目指す。

アルファのプレイヤーが決勝点を決めてガッツポーズ



少年の部東京都代表になったフウガドールすみだファルコンズアルファ

オープンの部東京都代表になった「あんブルー」

東京消防庁が２大会ぶりの優勝

第 47 回東京都自治体職員サッカー選手権大会兼 第 48 回全国自治体職員サッカー選手権大会東京都予選会

主　催：公益財団法人東京都サッカー協会　　日　時：2019 年 5 月 11 日（土）～6 月 8 日（土）
会　場：清瀬内山運動公園サッカー場、福生市営競技場

7 月 26 日～ 8 月 1 日に福島・J ヴィレッジで開催される第 48 回全国自治体職員サッカー選手権大会の東京都代表枠は 3 つ。
準決勝に勝利すれば、それは同時に東京都代表の座を勝ち取ることも意味する。
今大会ベスト 4 に勝ち残ったチームは、昨年の東京都予選と全く同じ顔触れであり、そのいずれもが過去に東京都代表となった経験を持つ強豪揃いとなった。

東京消防庁がPK戦を制して2大会ぶりの全国大会へ

準決勝1試合目は、過去に10度の決勝進出、うち3度の全国制覇と、東京都から全国大会に出場したチームの中でも随一の実績を誇る東京消防庁と、前回優勝の八王子市役所の対戦となった。東京消防庁は、日頃の訓練で鍛え抜かれた身体能力の高さを見せつけ、高さと強さ、そして抜群な走力によって展開を優位に進め、キックオフからの勢いそのままに試合序盤CKから先制する一方、八王子市役所も前回優勝チームの名に恥じぬ試合巧者ぶりを存分に発揮し、前半終了間際、僅かに生じた東京消防庁守備陣の乱れを突き値千金の同点弾を叩きこむ。

後半も東京消防庁がやや優勢に試合を進めたが、互いに得点を奪えぬまま、勝敗の行方はPK合戦に委ねられ、5人全員がキックを成功させた東京消防庁が決勝に進み、2大会ぶりの全国大会出場を果たした。

主導権を握り続けた杉並区役所が4得点を挙げて勝利

2大会ぶりの全国大会出場を決めた杉並区役所

準決勝2試合目は、杉並区役所vs町田市役所。両者とも試合前ウォーミングアップの段階から明るい声でムードを高め、緊張感と高揚感の混じりあう理想的なゲームへの入りが出来ているように見えたが、試合結果についてはやや一方的なものとなった。

序盤から受け身にまわる場面が続いた町田市役所に対し、杉並区役所は試合前からのムードをそのままピッチ上でも表現し、厚みのある攻撃で町田市役所守備陣を度々追い詰めた。

試合終盤、杉並区役所が徐々にリードを広げていく中、町田市役所は退場者を出し1人少なくなりながらも、反撃ののろしを上げるべく得点を挙げ意地を見せたが、試合を通して主導権を握り確実に得点を重ねた杉並区役所が4－1で勝利し、2大会ぶりとなる全国大会出場を勝ち取った。

自治体職員サッカーをプレーする意義

準決勝の結果を受け、決勝は東京消防庁vs杉並区役所、3位決定戦は八王子市役所vs町田市役所という組み合わせとなった。

決勝においては東京消防庁が苦しんだ準決勝の鬱憤を晴らすかのように圧倒的な強さを発揮。4－1で杉並区役所を破り2年ぶりの優勝を果たした。一方、3位決定戦では町田市役所がPK合戦までもつれた熱戦を制し、第3代表として2年連続となる全国大会出場を決めた。

2大会ぶりの全国大会を決めた東京消防庁のキャプテン眞方優作選手は入庁3年目。自分より10歳以上年上の先輩チームメイトと同じように「10年後も今と同じように東京消防庁でサッカーをしていると思う」と話す。

決勝で東京消防庁に破れ準優勝となった杉並区役所のキャプテンで、東京都社会人サッカーリーグ1部所属のZION FOOTBALL CLUBでもプレーする田原大資選手の「これからも杉並区役所に軸足を置きながらサッカーを続けたい。自分がプレーしなくなったとしても、このチームを応援する気持ちはあるし、コーチや監督になって関わっていきたいとも思う」という言葉の中にも将来に渡ってスポーツに携わる自治体職員サッカーの姿が感じられる。

3位決定戦に勝利し、2年連続の全国大会出場を決めた町田市役所のキャプテン阿部正宏選手は「私はサッカーをしたくて1年勤めた民間企業を辞め、町田市役所に転職してきたんです」と話し「市役所内ではサッカー部の活動に対する理解も深い」と感謝を示し、前出の選手同様に町田市役所というチームでサッカーを続けていることの意義を語ってくれた。

町田市役所の吉田輝監督が話した「役所勤務であっても部署移動などはあり、それでサッカー部の活動に参加出来なくなってしまうケースもあるが、民間企業勤務と比較すればその影響は小さいと言えるかも知れない」という言葉からは、自治体職員サッカーの世界が、社会人サッカーの目指す姿の一端を持ち合わせていることにも気づかされた。

優勝：東京消防庁

準優勝：杉並区役所

3位：町田市役所

4位：八王子市役所

TOPICS

優勝：十文字高校
○令和元年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会［女子］

令和元年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会女子決勝が8月1日に沖縄県の金武町フットボールセンターで行われた。決勝戦は、ここまで無失点で勝ち上がってきた兵庫県代表の日ノ本学園と1失点で勝ち上がってきた東京都代表の十文字高校の堅い守備を誇る両チームの対戦となった。決勝戦も接戦となり、後半の65分に十文字高校の月東優季乃選手が先制点を決めると、この1点を守って十文字高校が大会初優勝を飾った。

優勝：ペスカドーラ町田U-18
○JFA第6回全日本U-18フットサル選手権大会

全日本U-18フットサル選手権大会はFリーグクラブの下部組織同士の決勝戦となった。ペスカドーラ町田U-18（関東2／東京）とシュライカー大阪U-18（関西2／大阪）の一戦は前半から点の取り合いとなった。町田が10分に先制点を奪うと、1分後に大阪が同点。しかし町田が13分にゴールを決めて勝ち越した。後半も町田が攻勢をかける中で1点ずつを奪い合い、3-2で試合が終了。町田が大会初優勝を決めた。

優勝：多摩大学体育会フットサル部
○第15回全日本大学フットサル大会

大学日本一を決める、全日本大学フットサル大会は8月25日に、岸和田市総合体育館で決勝戦が行われた。ともに初の決勝進出となった多摩大（関東1／東京）と桐蔭横浜大（関東2／神奈川）の一戦は、白熱の試合となった。先制点を許した多摩大は12分に同点に追いつくと勢いそのままに16分に逆転ゴールを決めた。多摩大は後半にも得点を重ねて、5-2で試合終了。悲願の大会初優勝を決めて、令和初の大学王者に輝いた。

準優勝：PET
○JFA第19回全日本O-60サッカー大会

O-60の日本一を決める、全日本O-60サッカー大会は、最終節でグループ最下位から大逆転で決勝ラウンドに進出したPET（関東1／東京）が大会初出場にして決勝進出。京都O-60（関西2／京都）と決勝を戦った。試合は序盤からPETが主導権を握るが、9分に京都が先制点を決める。その後もPETが幅のある攻撃を展開してボールを動かし続けるが、全員が守備に戻る京都の堅い守備を崩せず、そのまま0-1で試合終了。惜しくもPETは準優勝で大会を終えた。

「みんな、楽しいサッカー仲間」であることを！

2019年、日本サッカー協会・田嶋幸三会長はサッカー界における「暴力・暴言等の根絶」に向けて、強いメッセージを発信しました。その中に「指導者は変わらなければならない」「サッカーは楽しくなければ意味がない」とサッカーのあるべき姿について述べています。JFAは2015年より「ウェルフェアオフィサーの導入」を行い、全国に「暴力等根絶のための啓発推進、普及活動」を展開しています。

東京都サッカー協会は、ウェルフェアオフィサー活動として未成年者年代の関係者を中心に、競技会場（マッチ）におけるウェルフェアオフィサーの講習会を開催し、多くの理解を求めています。

現在までに各連盟役員、地域役員、チーム代表者や指導者、審判員、保護者等700人以上の方々に気づきを伝えさせていただいています。さらに、本年度からはクラブやチーム内のウェルフェアオフィサー普及にも充実を図っていきます。

窓口に寄せられる相談や通知は、年々増加傾向にあります。特に、未成年者に関する事案は後を絶たない状況です。サッカーの指導現場における暴力・暴言・差別などが顕在化し、「許さない」の意識改革が背景にあると推測されます。

私たちは、このような相談に、迅速かつ丁寧に対応していくことを心掛けています。

これまでの、サッカーを取り巻く環境や指導法を否定することはできませんが、現在は、暴力・暴言等を伴わない指導や情熱を求めています。残念ながら、「指導者に関する規則」を守れなかった方には、裁定委員会との連携により、反省、改善を求めるためにお休みを願っていますが、ウェルフェアオフィサーが、大ごとになる前に、「警告ですよ」「見直すチャンスですよ」ということをいち早く気づかせてあげることができれば防げることだと思っています。

また、反省し、改善した指導者が指導現場で活躍できるように、見守り、フォローすることもウェルフェアオフィサーの役目の一つと考えています。私たち、ウェルフェアオフィサーは「暴力・暴言等の根絶」のために今後も活動していきます。

・ウェルフェアオフィサーとは
～リスペクト・フェアープレーの伝道者

・ウェルフェアオフィサーの目的とは
～暴力等の根絶に向けて

・ウェルフェアオフィサーの任務とは
～サッカー仲間としての気づきを伝える

RESPECT
大切に思うこと

東京都サッカー協会
ウェルフェアオフィサー・ジェネラル
古賀 研二

公益財団法人日本サッカー協会の「リスペクトプロジェクト」に賛同しています。

AFTER THE MATCH
Jリーグが発展するために

東京FAを完全にリタイアしてから、毎週のように味の素スタジアムへ足を運ぶようになりました。もっぱらFC東京のホームゲームを観に行っています。暇が出来たということもありますが、スタジアムへ行かなければ観ることができないものを、東京サッカーサポーターの一人として自分の目で確かめたいという思いがあるからです。

それは、サッカーがこの国でさらに盛んになり、その価値を高めていくためには、首都である東京のクラブが、常にトップ争いの中にいて、何年かに1回は優勝する――。そういった歴史を積み重ね、アジアで、そして世界で存在感を示し、我が国のサッカー文化を牽引していく必要があると思っているからです。

司馬遼太郎は彼の作品「アメリカ素描」の中で、文化と文明の概念について次のように言っています。

文明とは、誰もが参加できる普遍的なもの、合理的、機能的なもので民族を越えるもの。
一方文化とは、人間が作り出したすべてのもの、特定の集団（例えば民族）においてのみ通用する特殊なもの、普遍的でないもので範囲が限定されるもの。

この概念によればサッカーは地球上どこでも行われている「グローバルな文化」であり、まさしく「フットボール文明」といえるのではないでしょうか。

嘗て我が国には「サッカーの町○○」とか、「御三家」などと呼ばれるところがありました。サッカーがローカルな文化だった故にこう呼ばれたわけです。しかしサッカーが広く普及し、どこででも行われるようになるとこのような名前は自然と聞かれなくなりました。

それだけ我が国においてもサッカーが普遍的になったということであり、これにJリーグが果たしてきた役割は非常に大きいと思います。そしてJリーグをさらに発展させるためには、多くの競技人口と観客の支えが必要です。キッズからシニアまで、男性も女性も、障がいのある人々も、そしてフットサルやビーチサッカーなどサッカーに関わるすべての人々が多様性を推進して行く必要があります。

文化という面からJリーグを見るとき、Jリーグに関わるすべてが文化の指標になります。数えるなら①チケット：手頃な価格で簡単に手に入る。②スタジアムへのアクセス：容易な交通手段で、また行きたいと思う。③スタジアム：天候に拘わらず快適に観戦できる。④ゲーム（選手、審判、チームスタッフ）：観客を引きつける素晴らしいプレーを観ることができる。⑤観客：満員の観客で、両チームのサポーターが作り出す雰囲気を楽しむことができる。⑥運営やセキュリティ：円滑で安全な運営、危機管理体制ができている。

今年のFC東京は、かなりの程度でこれらの指標を満たしており、是非ともJ1優勝を果し、東京サポーターが誇ることができる歴史を作ってほしいものです。

と、このように小難しそうなことを書きましたが、実際に試合が始まれば東京サポーターの一人として一喜一憂しながらゲームを楽しんでいます。

東京都サッカー協会名誉会長
上野 二三一

東京都中学校体育連盟サッカー専門部

技術部部長
関口剛史

東京都中体連サッカー専門部では、『逞しい選手を育成するためのきっかけ』という観点から、U13の選抜チームを率いて3月26日から30日までマレーシアへの海外遠征を実施しました。

現地ではNFDP（*）との親善試合を行いました。NFDPはマレーシアのスポーツ学校の中にあり、マレーシアFAとマレーシア政府が共同で運営するプロジェクト選抜チーム。将来のマレーシア代表の育成を目的としており、どの種目に於いても、日本では想像できないような非常に立派な施設を持つ学校です。

基本的に天然芝でしたが、慣れないグラウンドで試合をするということに於いては、ストレスに感じることが多く、その中で、どれだけのプレーができるか?逞しさを求めるには、これ以上の条件はなかったと思っています。

遠征を通じて、とにかく、足りないところばかりが目立ったという印象があります。ここまで、各チームで良い選手と判断され、支部選抜に入り、都選抜に入ってきた選手たちが味わう最初の挫折感だったと思います。ブラジルワールドカップ後にJFAのTSGは、『本気で日常生活を変える』というフレーズを使い、育成年代でもインテンシティ高く、日頃の練習から取り組むべきだと言い続けています。まさに、その通りだと思った遠征でした。

彼らが、今回感じたことをどれだけ継続できるかが問題であり、そのために重要なのは、私たちのアプローチの仕方になると思います。指導者の選手を観るレベルや指導力が上がれば、目の前にいる選手のレベルも必然的に高くなるはずです。結局は、指導者のレベルアップが、中体連のレベルを上げる近道だと感じました。

*NFDP=National Football Development Program

東京都中体連選抜チーム

現地ではNFDPとの親善試合を行った。

オフィシャルサイト
http://www.tokyofa.or.jp/category/league/juniorhighschool.html

---

東京都フットサル連盟

鶴岡洋祐

フットサル連盟では、リーグ戦を中心に1種、2種、3種、女子を管轄し、今年9月からシニアリーグの発足も視野に入れ活動しています。その中で今回は、ユース(U-15、U-18)リーグを紹介します。U-15は今年が9回目のリーグで、1部2部合わせて26チーム、U-18は今年が12回目のリーグで、1部2部合わせて24チームが加盟登録しています。発足当時はサッカークラブが母体のチームが登録していましたが、近年はFリーグや地域リーグに所属するフットサルクラブが母体のチームが数多く登録しています。

指導する監督・コーチもフットサルクラブのトップ経験もあり、ユース世代への指導レベルが上がってきています。試合中の激しさ、雰囲気も大人に負けることなく、またフットサルの戦術などで取り入れられるサインプレーも行われて、近年はレベルが非常に上がっています。

リーグ戦は主にフットサル施設や体育館を利用し、トップレベルの公式戦に近い環境でプレーしています。選手達は年齢が上がってユースを卒業してもプレーを続け、その上のサテライト、トップチームで活躍する選手が増えており、フットサル日本代表まで駆け上がっている選手もいます。さらなる飛躍を期待して、今後のフットサルレベルの向上に繋げていきたいと思います。

ユース（U-15、U-18）リーグ

ユース（U-15、U-18）リーグ

オフィシャルサイト
http://www.tokyofa.or.jp/category/league/futsal.html

東京都女子サッカー連盟

横田景子

2019年度令和元年の今年は十文字高校が目覚ましい活躍を見せています。皇后杯 JFA第41回全日本女子サッカー選手権大会・東京都予選での優勝、悲願のインターハイ初制覇という偉業を成し遂げました。東京都の皇后杯予選は、一般ラウンドと高校ラウンドに分けて予選ラウンドを行い、それぞれの代表2チームが決勝ラウンドとして、たすき掛けで1つの代表の座を争う形で行っております。

今年は一般ラウンド19チーム、高校ラウンド33チームの参加によって行い、一般ラウンドよりSOCIOS. FCと日本大学が、高校ラウンドからは十文字高校と村田女子高校が決勝ラウンドに進出しました。毎年、皇后杯東京予選の時期は高温多湿と雷、台風に悩ませられる大会ですが、皆様のご記憶にも新しいように今年の6月、7月の日曜日は、ほとんどと言って良いほど雨で、大会運営という意味では誠に頭の痛い大会でした。そんな中で選手たちは素晴らしいパフォーマンスを見せてくれ、毎試合好ゲームを展開してくれました。準決勝のSOCIOS. FC対村田女子高校も、十文字高校対日本大学も非常に好ゲームで、特に十文字高校対日本大学の試合は追いつき逆転しては、アディショナルタイムに追いつき、延長、PK戦で9人まで決着のつかない試合となりました。決勝トーナメントでの接戦を制し、十文字高校が東京都代表の座をつかみました。また、この大会直後に開催されたインターハイでも十文字高校の勢いは止まらず、昨年のインターハイ1回戦で負けた悔しさを胸に、トーナメントを見事勝ち進んでいきました。野田監督就任1年目にインターハイ制覇するという快挙を成し遂げています。

女子サッカー連盟では年々登録チームも増え続け、技術的な高さと最後まであきらめない精神力を兼ね備えたチームが数多くあり、東京の、ひいては日本の女子サッカーに大きな期待がもてます。これからの女子サッカーの発展に寄与できるようこれからも連盟一同取り組んでまいります。

十文字高校 対 日本大学

オフィシャルサイト
http://www.tokyofa.or.jp/category/league/josi.html

東京都少年サッカー連盟

委員長
吉實雄二

東京都少年サッカー連盟の2019年度登録チーム数は804チーム、登録選手数は37,700名（7月末現在）です。全国的に、登録チーム数、登録選手数が減少している中、多くのスポンサー様に共催、後援、協賛して頂き、低学年から高学年まで、多くの選手たちがリーグ戦、全日本U-12選手権予選を始めとして、全国大会、関東大会、東京都大会でのナンバー1を目指しています。また、普及事業として都内全域の16ブロックにて低学年（1～3年生対象）のフェスティバルを年2回開催しています。

昨年度から東京都U-11女子の海外遠征を固定化し、東京都U-12男子の海外遠征と合わせてこの年代での貴重な経験を積むことがこれからのサッカー人生に大きなプラスになると信じています。今年も4月から「三井のリハウス1部、2部リーグ、ブロックリーグ」6月に「ハトマーク　フェアプレーカップ東京都4年生サッカー大会」、「TOMAS カップ東京都選抜6年生サッカー大会」を開催しました。今年度の夏休み期間の公式戦活動は、無理をしないで「安心、安全」を重視したブロック運営で実施しています。各行政区のサッカー協会、連盟等、多くの方々にご協力いただいており、今後もより多くのサッカーファミリーが参加出来る機会を多く持ちたいと思います。

Aグループ　リバティフットボールクラブ

Bグループ　東京BIGスポーツJrFC

Cグループ　エルフシュリット品川Jr

Dグループ　杉並アヤックスサッカークラブU-12

ハトマーク フェアプレーカップ
フェアプレー賞

TOMASカップ東京都選抜6年生1位、7ブロック

オフィシャルサイト
http://www.tokyofa.or.jp/category/league/junior.html

Tokyo FA News 2019 vol.31 発行元 （公財）東京都サッカー協会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス6F TEL(03)6801-8001(代表) 令和元年9月30日 発行

新聞ではずむ親子の会話

朝日小学生新聞 検索

漢字にはふりがながついているよ

ニュースに強い！むずかしいことばの解説もあるわ

まんがや小説いろいろあるから親子で楽しめるね

毎日届くのね読む習慣がつきそう

わかりやすいニュース解説、おさえておきたいニュースのことば、さまざまな学習まんがなど、盛りだくさんのメニュー。読者の家庭では、お子さんと一緒にお母さんも愛読しています。

朝日小学生新聞

毎日発行　8ページ　月ぎめ1,769円（税込み）

スポーツコーナー

毎週1回掲載のスポーツコーナー、『週刊朝スポ！』では、最新情報や2020年東京五輪・パラリンピックで行われる競技を、楽しく見るコツを紹介しています！　紙面で紹介した動きは動画でも見ることができます。

ご購読、「朝学ギフト」のお申し込みは下記、またはお近くのASA（朝日新聞販売所）へ

通話無料 0120-415843　ウェブサイト www.asagaku.com

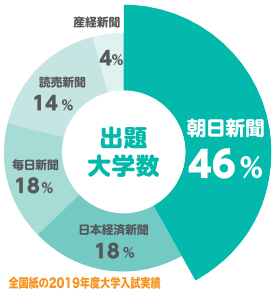
朝日小学生新聞のサンプル紙面もチェックできます。

2020年度大学入試改革に備え

読解力と表現力が身につき、図表を読み解く力も！

今から『朝日新聞で学習ノート』

新しいテストは社会的テーマの知識を問う出題が増え、長文やグラフ、図表をすばやく読み解く力が求められます。その対策として、朝日新聞のコラムや解説を活用した「天声人語の書き写し」と「いちからわかる！の線引き学習」がお勧めです。A4判、両面表紙20ページ。学習ノートはASA(朝日新聞販売所)で。



全国紙の2019年度大学入試実績

朝日新聞は入試に出る！

2019年度も、多くの大学の入試問題に朝日新聞の記事が登場。理系・文系を問わず、さまざまな学部や学科の入試問題で採用されています。

※大学通信調べ（2019年5月31日現在）。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞（読売新聞オンライン）、朝日新聞（朝日新聞デジタル）、毎日新聞（デジタル毎日）、日本経済新聞（日経電子版）、産経新聞（産経ニュース）。回答数723。

＼出題校一覧はWEBで／

朝日　この大学で出た　検索